

明延鉱山は 8 世紀頃から 1987 年の閉鎖まで操業されていた。銅と錫が最も豊富な鉱石で、一時期には明延は日本の錫の 9 割を供給していた。今日でさえ見える鉱脈があるが、1980 年代までに鉱石を発掘するより輸入する方が安くつくことが判明した。

鉱山が閉鎖したとき 18 層になっており総計 550 キロメートルになる坑道があった。下層部の坑道は意図的に水浸しとしたが、鉱山の上層部はガイド付きツアーのために保存されてきた。

鉱山は 1 年を通じて摂氏 11 度くらいのもので、それは醤油と酒を寝かせるのに理想的である。地元の酒造りの山陽盃は「センサクラ」と呼ばれる特別な酒を造るため地元の米と水を使っている。そしてその酒は鉱山で寝かされるのだ。